

秋田の「伝説の講師」平塚氏とは

秋田の合格率は全国平均大きく下回っていた

秋田県トラック協会では、毎年2回の運行管理者試験の時期が近く、「運行管理者試験対策勉強会」を開催している。勉強会の講師を平成17年からずっと勤めているのが平塚氏だ。

平塚氏は79歳。平成15年に日本通運を退職後、秋ト協の総務部長を平成22年まで勤めた。現在は秋田ト協の運行管理者試験対策アドバイザーとして、勉

強会の現場で教へんを
ふるつてゐる。
平塚氏が秋ト協に入
った平成15年当時、秋
田県の運行管理者試験
の合格率は全国平均を
大きく下回っていた。
秋ト協は試験の合格率
を引き上げるべく、平
成17年に勉強会を立ち
上げたが、この時、大手
運送会社で運行管理者
の経験があつた平塚氏
に講師として白羽の矢
が立つた。

平塚氏の勉強会は1
日目に、運送事業法を
4時間、車両法を1時

勉強会の平 勉強会を進

と努力も必要。まず、受験生にはそうした心構えをしっかりと持つてもらう。受験生の多くは改善基準告示に関する計算問題（拘束時間、連続運転違反、休息時間違反等の計算）を苦手としている。

番に眺めるだけの講義では、その場で『わかった気になる』だけで、には何も残らない。それでいて、この人は『かっていらないな』と、う人は顔色を見ればわかる。休憩時間に、人に直接声をかけ、「具体的な計算方法や問題文の解説の仕方などと教えてあげることもできる」と、また、「自分の目、耳、手をフルに使えば、自分の目、耳、手をフルに使って勉強する」と、

つ題されるから、国のホームページなどを見て、解説もこまめに作り直している」
「伝説の講師」平塚氏の噂は全国各地に広まり、関東、関西、九州、果ては沖縄にまで、勉強会の講師として招かれ るようになった。今年、全日本トラック協会と秋田県トラック協会 は、こうした平塚氏の運行管理者試験の合格率向上に寄与した功績を称え、表彰状と感謝状を贈っている。



身振り手振りで熱血講習間
間、改善基準告示を1時間30分、実務上の知識を30分学ぶ。2日目に交通法1時間、出題

秋田県は運行管理者試験合格率で平成17年度第1回試験から令和3年度第2回試験まで17年間計33回の試験のうち、回合格率日本一となつた。平成19年度第2回試験では合格率84・7%という驚異的な数字を叩き出した。合格率日本一は、運行管理者試験対策勉強会で平塚捷悦(じょううえつ)氏が講師を務めてからとなる。

5分野の過去問題(回分)と重点事項について説明したプリントの解説を7時間行う。

会場にいる一人一人の
顔色見ながら指導
勉強会について、平
塚氏は次のように話
す。

近年、こうした勉強会やセミナーは、パワーポイントと大型スクリーンを使いながら行われることが多いが、平塚氏はホワイトボードに表や計算式などを

このよきな熱血指導を行ふ平塚氏だが、常日頃から、市販のテキストに記載されている法令については、わかりやすく解説し直したり、過去の出題傾向を独自に分析してプリント

「わかつてない」受講生に直接声かけ

知識については、業務員の点呼や健康管理などの日常業務に関する問題について、適(○)

「運行管理者」には事業者(経営者)にかわって輸送の安全を確保する責任が課せられる。運行管理者という国家資格試験の難関を突破するには、相当の覚悟と努力も必要。まず、受験生にはそうした心構えをしっかりと持つてもらおう。受験生の多くは改善基準告示に関する計算問題(拘束時間連続運転違反、休息時間違反等の計算)を苦手としている。

書き、会場にいる受講生一人一人の顔色（主觀情）を見ながら指導を行つてゐる。

「あらかじめ作り書きされた資料をスクリーンに映し、それを一番に眺めるだけの講義では、その場で『わかった気になる』だけで、には何も残らない。それでいて、この人は『かつていらないな』とう人は顔色を見ればわかる。休憩時間に、そこに直接声をかけ、「具体的な計算方法や問題文の解釈の仕方などを教えてあげることも多

試験問題を作る担当者は、せいぜい2つ3年で異動になってしまふが、私は何十年と運行管理者試験の問題と向き合い、研究し続けている。法令の改正については100%出題されるから、国のホームページなどを見て、解説もこまめに作り直している」

「伝説の講師」平塚氏の噂は全国各地に広まり、関東、関西、九州、果ては沖縄にまで、勉強会の講師として招かれることになった。今年、全日本トラック協会と秋田県トラック協会を表すあわいの真題を

パワポ使わずアナログの熱血指導

することが大事。実際、この勉強会で受講生が使うテキストは、びつしりメモ書きされて真っ黒になる。2日間の日程だが、生徒は限界ギリギリまで頭を使う、私自身もへへへ